



Smile Story #1 田園調布学園大学 川崎フロンターレ「託児室」

地域
貢献

田園調布学園大学・ 川崎フロンターレ「託児室」とは？



川崎フロンターレのホームゲーム開催時に等々力陸上競技場内バックスタンド下に設置される託児室は、サッカー観戦中のサポーターの子どもをボランティア学生が保育士とともに一時保育するもの。対象年齢は1歳6か月以上の未就学児で、学生は保育士の指導を受けながら準備から後かたづけまでのすべてを経験します。一緒に絵本をみたり、おもちゃで遊んだりする中で、子どもの気持ちを感じ取りながら、関わり方を工夫し、保育の実践力を身につけていきます。利用者も年々増加しており、子育てしながらサッカー観戦も楽しみたいという保護者にとって託児室の存在は非常に好評です。子育て支援として地域に果たす役割も高まっています。



等々力陸上競技場内
バックスタンド下(地下)

実習では得られない学びが
ここにはあります！

小さいお子さん連れでも
安心して試合が見られる
環境は、フロンターレの
看板です！



川崎フロンターレ
サッカー事業部 営業部
井川 宜之 さん



自分も「先生」という
責任感を持てます

子ども未来学部
子ども未来学科 4年
谷本 英里香 さん
静岡県富士宮北高等学校出身

井川さん：田園調布学園大学には、川崎フロンターレがまだ弱かったときからずっと応援していただいています。特に託児室は、いまやチームに欠かせない、とても重要な存在です。

谷本さん：そんな風に評価していただけるととてもうれしです。川崎フロンターレ託児室は、とても楽しくて、私は、いつも真っ先に手を挙げて参加するボランティアです。

井川さん：託児室を設けても、利用者は1、2人だけというチームが多い中、フロンターレは定員15人がいっぱいになることも多いです。大学が協力してくれているという安心感と、1,000円という破格の託児料金のおかげで、利用しやすいと好評をいただいています。

谷本さん：託児室では、保護者の方とのコミュニケーションや、絵本の読み聞かせなど、保育の実践力につながる貴重な経験をさせていただきとても感謝しています。プロの保育士の方と一緒に子どもや保護者と関わり、自分も「先生」という責任感を持って子どもと接することができる時間は、ここでしか得られない学びがあると感じています。

井川さん：スポーツマネジメントなどで大学と連携しているチームはほかにもありますが、託児室という形の協力は、川崎フロンターレと田園調布学園大学の独自の取り組みです。サッカーを通して川崎市という地域全体を活性化していくためにも、これからもいろいろな形で連携していければと思っています。



フロンターレカラーで
チームのマークがついた
DCUのユニフォームを着
て、子どもたちと一緒に
過ごします。

川崎フロンターレの 育成コーチによる授業開講

TOPICS



田園調布学園大学では、2007年より、川崎フロンターレ育成コーチによる授業「球技スポーツ(サッカー)」を開講。川崎フロンターレ育成講師の指導のもと、子どもの発達発達、特徴を知り、年齢別に適した指導方法を学びます。またサッカーのコーチング法を学び、サッカーの楽しさや体を動かす大切さをどのように子どもたちに伝えるか、講義と実技を通して学習していきます。



チームの人気マスコット
「ふろん太くん」をはじめ、
キャラクターも遊び
に来てくれます。



子どもたちが
おもちゃで遊ぶ様子に
接する経験も、
とても貴重な学びです。

